

## 5.9 人と自然との触れ合いの活動の場

### 5.9.1 調査実施日

本調査の実施日は、表 5.9-1 に示すとおりである。

表 5.9-1 人と自然との触れ合いの活動の場調査実施日

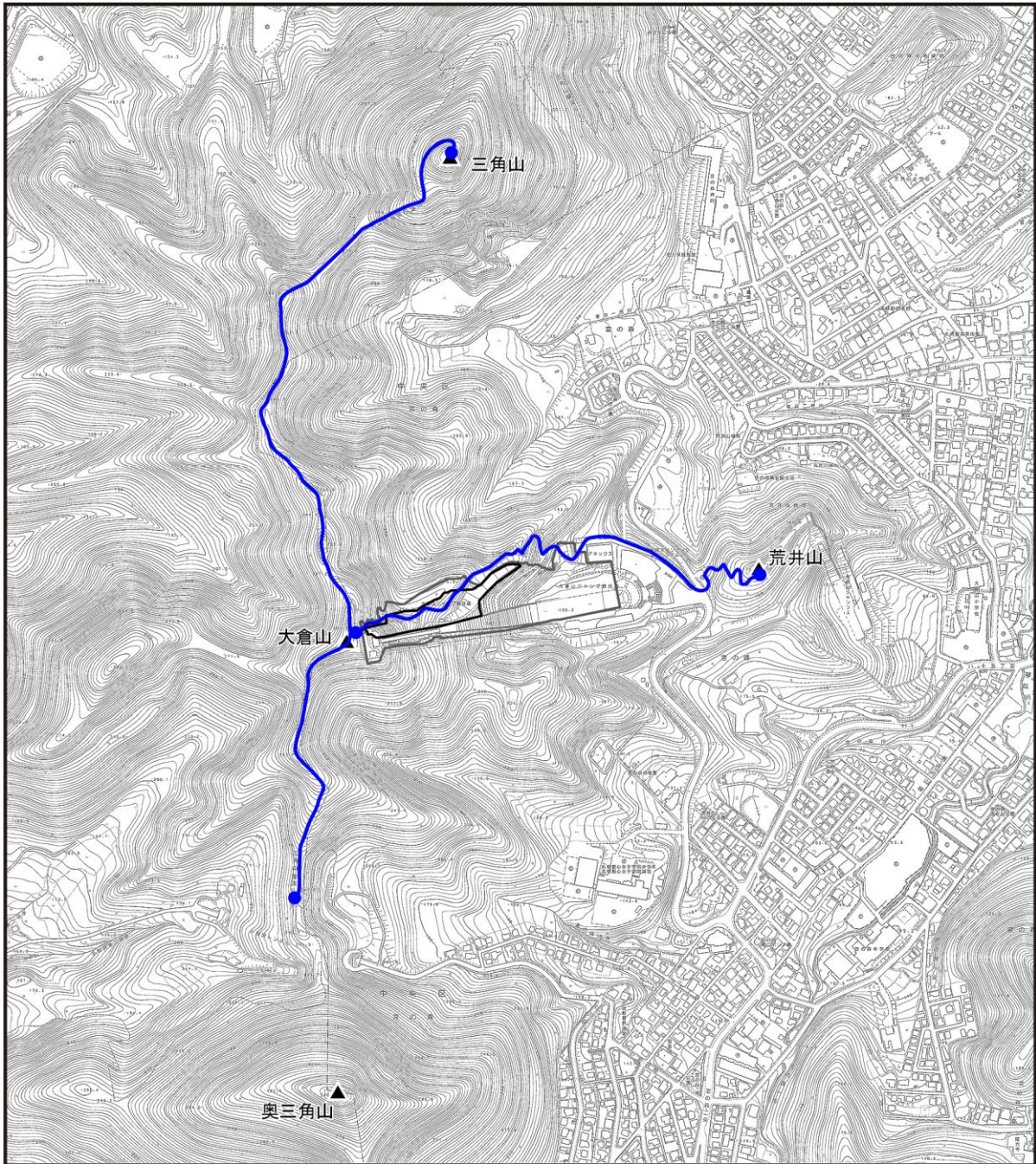
調査項目	調査実施日
人と自然との 触れ合いの活動の場	令和6年 2月 4日、8日、14日 9月 3日、5日 10月 11日、20日

### 5.9.2 調査方法

事業実施区域およびその周辺における、人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況および利用環境の状況について、資料調査および現地踏査(目視確認)により把握した。

### 5.9.3 調査地

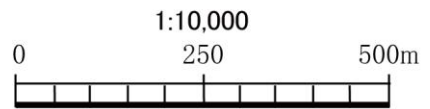
調査地は、図 5.9-1 に示すとおり、大倉山ジャンプ競技場施設内遊歩道～荒井山散策路、および三角山散策路の2地点とした。



凡 例

●—● 人と自然との触れ合いの活動の場調査地点

▭ 樹木伐採範囲  
▭ 事業実施区域



※この地図は、札幌市発行の現況図(1/2,500)を使用したものです。

図 5.9-1 人と自然との触れ合い活動の場調査地位置図

#### 5.9.4 調査結果

現地調査の結果、人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況および利用環境の状況は、表 5.9-2～表 5.9-3 に示すとおりである。利用状況については、現在整理中である。

表 5.9-2 人と自然との触れ合いの活動の場の状況  
(大倉山ジャンプ競技場施設内遊歩道～荒井山散策路)

調査地点	大倉山ジャンプ競技場施設内遊歩道～荒井山散策路
位置	大倉山ジャンプ競技場施設内遊歩道は、オリンピックミュージアム前から観戦スペース脇を抜け、大倉山ジャンプ台の北側に位置する斜面および尾根を登り、大倉山山頂付近(標高 307m)で三角山散策路に接続する。斜面および尾根の急勾配区間には木道階段が整備されている。20 分程度で登頂できる。 荒井山散策路は、大倉山ジャンプ競技場の正面向かいに位置する荒井山山頂(標高 185m)への登山道である。10 分程度で登頂できる。
利用環境	大倉山ジャンプ競技場施設内遊歩道は、観戦スペース脇の区間にはラベンダー畑が隣接する。大倉山山頂に向かう木道階段周辺ではミズナラ等を主体とする落葉広葉樹林が分布し、ミズナラやカツラ、ハルニレ等の大径木も点在する。大倉山展望台からは、落葉広葉樹林に囲まれ眼下にジャンプ台が伸び、その先には札幌市の市街地が一望できる。 令和 6 年度は、三角山周辺でヒグマの出没が相次ぎ、7 月 5 日～9 月 4 日まで閉鎖されていた。 荒井山散策路は、ミズナラ等を主体とする落葉広葉樹林が分布する。冬季は山頂から木々の隙間越しに大倉山ジャンプ台を見ることがができる。
利用状況	三角山散策路を歩くために当該遊歩道を利用する登山客は少ない。 利用客は大倉山ジャンプ競技場の駐車場を利用している。 調査実施日の延べ利用客数(哺乳類調査自動撮影カメラ No.1 データ) 9/3(火) 5 名、9/8(日) 0 名 10/11(金) 2 名、10/20(日) 0 名

表 5.9-3 人と自然との触れ合いの活動の場の状況(三角山散策路)

調査地点	三角山散策路
位置	三角山散策路は、大倉山ジャンプ競技場から北に約 500m の位置にある三角山(標高 311m)から大倉山(同 307m)、奥三角山(同 354m)等へと連なる山々の尾根上に整備されている自然歩道「三角山～盤溪ルート」である。大倉山山頂では、大倉山ジャンプ競技場施設内遊歩道と接続する。大倉山から三角山および小別沢まではそれぞれ 20 分程度で到達することができる。
利用環境	三角山散策路は、ミズナラ等を主体とする落葉広葉樹林が分布し、ミズナラやカツラ、ハルニレ等の大径木も点在する。三角山山頂からは、落葉広葉樹林に囲まれながら札幌市の市街地が一望できる。 札幌市が管理する自然歩道「三角山～盤溪ルート」で、登山初心者やトレイルランニングによく利用されている。 令和 6 年度は、三角山周辺でヒグマの出没が相次ぎ、7 月 5 日～9 月 4 日まで閉鎖されていた。
利用状況	小別沢～大倉山～三角山を登山やトレイルランニングで利用している。この区間を往復する客も多い。若い人から年配の人まで年齢層は幅広い。 利用客のほとんどは、大倉山ジャンプ競技場の駐車場を利用していない(三角山登山道入口の駐車場を利用していると思われる)。 調査実施日の延べ利用客数(哺乳類調査自動撮影カメラ No.3 データ) 9/3(火) 18 名、9/8(日) 188 名 10/11(金) 88 名、10/20(日) 99 名

#### 5.9.5 予測評価

##### (1) 予測項目

予測項目は、土地または工作物の存在および供用に伴う人と自然との触れ合い活動の場の利用環境への影響の程度とした。

##### (2) 予測方法

予測方法は、事業計画を基に、人と自然との触れ合い活動の場の利用環境の変化の程度について予測した。

##### (3) 予測地域

予測地域は、人と自然との触れ合い活動の場の2地点とした。

##### (4) 予測時期

予測時期は、供用開始後事業活動が定常状態に達した時期とした。

##### (5) 予測結果

大倉山ジャンプ競技場施設内遊歩道～荒井山散策路については、事業の実施により当該遊歩道が再整備され、利用客増加の可能性が考えられる。しかし、現状では三角山散策路を歩くために当該遊歩道を利用する登山客は少ないことから、土地または工作物の存在および供用に伴う影響は極めて小さいと考えられる。

三角山散策路については、当該地は事業実施区域外に位置しており、土地または工作物の存在および供用に伴う影響はないと考えられる。

##### (6) 環境保全のための措置

事業の実施による人と自然との触れ合い活動の場への影響はないまたは極めて小さいと予測されたことから、環境保全措置は講じないこととする。

##### (7) 評価

事業の実施による人と自然との触れ合い活動の場への影響はないまたは小さいと予測された。